

やすらぎの じぞうもじをあなたに

新 NO. 1
2013年1月1日発行
発行者 夕深
981-1107
仙台市太白区
袋原郵便局留
問い合わせ先
090-6221-6611



2013年巳年

新しくなり購読無料へ

前回までのじぞうもじ通信では、年間購読料千円のご協力の呼びかけをいたしておりましたが、今回より購読料無料として名前も新たに「やすらぎのじぞうもじ

をあなたに」を新第一号とし今後は、私が希望する押し付けであってはならないものを作るためにも、ご希望の方々のみにお送りすることになりました。

おじぞうもじの贈り物

私（じぞうもじ書家 夕深）が楽しみながら時間のあるときに自由に発信するためこれからは発行も不定期とし、皆様にはより心に届けられるような新聞作りをしていきたいと思っています。

すでに会費千円を納入していただきました皆様には、お一人おひとりに、心をこめて私の手書きじぞうもじをお送りいたしますので何卒ご理解くださいますようお願いいたします。順番に書いてお送りいたしますのでお時間がかかるかと思えますがよろしくお願いいたします。これまであなたかなるご支援をいただきましてことに心より感謝申し上げます。

じぞう一人語り

あるとき、私は笠をかぶったお地藏さまの絵を描きました。日本昔話に「かさじぞう」というお話があるように、冬の冷たい雪の中の心温まるお地藏さまです。

そのお地藏さまを見た方が、「このお地藏さまをある人に贈りたいのですが。」とおっしゃいました。その「ある人」とは、ある日突然亡くなってしまった当時一緒に働いていた同僚です。何故、このお地藏さまの絵をみて贈りたいと思ったのかを尋ねると、「遠いところで暮らしているのだから〇〇くんが、このお地藏さまのように笠をかぶってあれば雨雪もしのげるだろうと思って・・・。」

その方の同僚を思う深い愛情を感じ、すでに亡くなって十年以上が経っているという歳月を聞いて信じられない思いでした。人は、目に見えるものや目に見えることを重視してし

まいがちで、ひいては時間が過ぎてしまうと風化の一端を辿ってしまうことが多いものです。

しかし、このように心の中でいつまでも忘れず生きている人の心に出逢うと私も一層心が熱くなります。その「かさじぞう」に「〇〇くん 元気ですか？今でもお前の声は聞こえてるよ。」という依頼者の言葉を添えました。

（2012年12月27日じぞうもじブログに記載）

「心の贈りもの」のお手伝いをさせていただける私は今日も幸せです。ありがとうございます。

（夕深 記）



これまでの活動と 今後の予定について

広島でじぞうもじ展開催

二〇一二年十一月二十二日〜十二月六日の期間、広島県でギャラリーいしはら様の周年記念企画展による「安らぎのじぞうもじ展」が展開されました。私の体調不良によりギャラリーへ伺うことができずとても残念でした。快く最後まで開催のご協力をいただきました。ありがとうございました。感謝申し上げます。そして、個展開催す

るに当たり現地でご協力をいただきました。各方々に心より感謝申し上げます。広島のお客様へご覧いただき、大変嬉しうもじ展「広島」がの文字のようにこれからの世界が平和に向かって欲しいと願うばかりです。



昨年十二月三日に宮城県古川支援学校へ訪問し、縦五〇センチのじぞうもじ書を五枚寄贈させていただきました。当初は校長先生が私の作品を生徒さんが見て優しい気持ちを持ち続けてもらいたい、と作品の貸し出しを依頼されたことがきっかけでしたが、私は貸し出しではなく、いつも生徒さんへ見てもらえたらと思いい、大きな書を書いて持参いたしました。当日は高等部の生徒集会で私はゲストとして参加し、生徒さん

の前に作品を出す、ワーツと声が聞こえてきました。かわいー！と聞こえると私もうれしくなりました。書いた文字の説明をしながら生徒さん一人ひとりの顔を見てみると、心の輝きが見えるようです。一方では、急な発作を起こされた生徒さんがおり、先生方の冷静で機敏な対処をしていらつしやうた姿が印象的でした。人は互いに支え、支えられて生きていくことを身近に感じた時間でした。そんな私の学校訪問の様子

古川支援学校に



書道の授業

現在、宮城県川崎町立川崎第二小学校で月に一度の割合で三年から六年年まで書道の授業を行っています。生徒数がとても少なく、数名と

最近、筆で書く「じぞうもじ」の他に、鉛筆やパステルでお地蔵様の絵も描いています。私は絵を描くことが好きなので、お地蔵様を描いていると、なぜか不思議と自分の心も穏やかで幸せな気分になってきます。絵であっても書であってもお地蔵様は、不思議な安心感と導きの力があると思うこのごろです。

お地蔵様の絵

今後の予定

○じぞうもじ展
とき5月3日〜5日
場所 龍寶寺
仙台市青葉区八幡
4-8-132

大崎八幡神社隣
お問い合わせ先
090-1622-1166
11

○秋保木の家○

今後は不定期ですが継続して木の家に手書きイベントを行う予定です。現在日程調整中です。

ある某企業の社長様より、会社の感謝状を書いてほしいとご依頼がありました。私も昔は賞状を書いてきたこともあり、賞状を書くことには慣れていたのですが、賞状の文字は独特の形態があり、見やすくないので個性がないのが特徴です。で

すから、今の私には、個性のない文字は合わないと思ひ一旦はお断りいたしました。

たった一枚の感謝状

すると、社長様は文字はあなたの文字で書いてください、というのです。大変驚

きました。そんな嬉しいことはありません。さっそく、私の文字で書き、絵も添



えました。たった一枚の感謝状ができ、私も感動の作品を送りました。

て楽しんでもらえたらいいなと思ひ、大きな筆でその場で大きな文字を書きたいと思ひいます。墨がたつぷりに入ったバケツから大きな紙に書く書初めを子供たちはどんな顔をして見てくれるかな、と私自身が一番楽しみにしています。